

すべての子どもたちへの心理的，教育的援助のあり方

I 研究の内容

昔に比べ，地域との交わりが疎遠になったり，核家族化や子どもの数の減少，また，友達と遊ぶといっても一人ひとりがゲームや漫画に興じ，一人遊びとなんら変わらない状況の中では，人間関係，友人関係作りも容易ではない現実がある。そのせいか本来なら成長の過程で，自然に社会性を身につけ人とかかわりながら成長していくものであるが，それができないがために，学校が居心地がよく楽しい場所ではなくなってしまっている子ども達も少なくない。

このような現代社会に生きる子ども達すべてを援助しようとする枠組みが今注目されている。その枠組みでは，子どもに対する援助を，不登校，いじめなどの問題で分類するのではなく，子どもが求める援助の程度に応じて三段階に整理している。一次的援助は，「すべての子ども」への援助，二次的援助は，配慮を要する「一部の子ども」への援助，三次的援助は，特別に個別の援助を必要とする「特定の子ども」への援助とされている。

本部会ではかつて，三次的援助である不登校生徒の事例を通して研究を進めてきたが，ここ数年は，一次的援助であるすべての子どもたち対象の予防的援助に力を入れることが，問題の顕在化を防ぐことにつながると考えるようになった。その方策として，エゴグラム，アサーション，ブリーフセラピーなどを日常的な指導に取り入れてみようとして研究を進めてきた。そして，これらを用いた学級指導などの授業実践を発表し合い，検証に努めている。

II 研究の具体的な内容と方法

1 学校教育相談についての理論学習と実践報告等

- (1) エゴグラム（交流分析）
- (2) アサーショントレーニング（自己尊重の自己表現）
- (3) ソーシャルスキル（対人関係を上手にする技術）
- (4) エンカウンター（本音を表現し合い，それを認める体験）
- (5) ブリーフセラピー（解決志向型アプローチ）
- (6) 「子ども権利条約」についての学習
- (7) 不登校生徒への取り組み事例研究

2 専門家を講師に招いての研修

- (1) 講師 精神保健福祉士 町田悦子先生
- (2) 日時 平成22年8月2日（水）
- (3) 場所 山梨南中学校
- (4) 内容 ポジティブセルフコントロール ～認知行動療法のワークを通じて～

3 授業研究1

- (1) 日時 平成22年9月1日(水) 授業者 加藤 紀子 教諭 (塩山中)
- (2) 題材 「協力に必要なもの」
- (3) ねらい 学園祭を前に、よりいっそうの協力性や団結する姿勢を身につける。
- (4) 研究授業における成果

授業時期が学園祭直前ということもあって、いろいろな活動の中で自分の意見や考えを伝え合いながら、いかに集団としてまとまりをもって行動できるかという協調協力性の意識づくりという点で大変効果的な内容であった。授業後の研究会では、「中学1年時からエンカウンターを取り組んでいるだけあって、一人ひとりが自分の考えを持ち、それを表現し合い、認め合っている雰囲気があり、集団としての基礎・土台ができているのが感じられた。」「教師と生徒の繋がり、生徒と生徒の繋がりが出てきている。」といった意見や感想が出された。

授業研究2

- (1) 日時 平成23年2月19日(水) 授業者 堀内 美紀 教諭 (牧丘第一小)
- (2) 題材 「それが あなたの いいところ」
- (3) ねらい ・友達の良いところを発見したり、自分の良いところを言われたりすることにより、自分の個性に誇りを持ち、相手の個性も尊重することができる。
・班の良さを考え、発表し合うことにより、まとまりを高める。
- (4) 研究授業における成果

自己理解・他者理解を目的に、個々の良いところ、友達の良いところ、班の良いところを認め合っていく中で、一人ひとりが自己肯定感を持つことができた。「嬉しかった」「気持ちよくなった」という児童の感想と笑顔が何よりも良かった。

Ⅲ 成果と課題

1 成果

- ・私たち教師がさまざまなスキルを学んだり演習したことによって、子どもを見る目や接し方が変わり、対応の仕方の引き出しが増えた。
- ・各自が学習した理論や実践を持ち寄り、部員で共有することができ充実していた。
- ・クラス集団を対象とした予防的援助のひとつとしてエンカウンターをとり入れた授業を行ったが、今後も予防的援助という側面を意識して、継続的に行うことがより効果をあげていくと思われる。また、小中の連携の大切さも実感できた。

2 課題

- ・さまざまな場面をとらえて、年間を通して系統的に授業が実践されると、人間関係づくりや集団作りがうまくいくのではないだろうか。その意味で、学年・学校といった大きな単位で取り組んでいけたら、もっと効果があるのではないか。
- ・来年度もう少し多くの人に（特に担任の先生方に）この部会に参加して欲しい。

(部長 土屋喜美子)